

菅原庄新常燈事、先度被仰下候。而依貞禪之訴訟、重難及訴陳可被立申、代々下知分明、早任先例、或取不可有相違之由、重所被仰下候。依執達如件。

文永四年丁卯十一月十二日

法眼

北野執行法眼御房

(文永四年七月廿六日の條參照。)

【北野神社古文書】

九七

菅原庄當社新常燈事、任代々之例、無相違可被奉行之由、可被仰下候也。可令存知給之旨、安居院法印御房御奉行所候也。恐々謹言。

文永

三月十二日

法眼 玄 可

北野執行法眼御房

(第二通は便宜合叙す。この文書文永三月十二日とのみありて、年次明らかならず。但し端書に淨土寺殿令旨とありて、淨土寺殿慈禪は文永五年十二月より八年五月まで天台座主なるが故に、その間のもの

たるを知り得べし。)

文永五年

戊辰

紀元一九二八

七月。石川郡白山宮莊嚴講の結衆等、一味同心を誓ふ。

【白山比咩神社文書】 石川郡

九八

莊嚴講結衆等 一味同心起請文條々

一、付世間出世可令講說禮儀事。

一、於爲入衆不足、以器量人令舉達之時、不撰親疎可致其沙汰事。

一、有亂行人時、隨聞及不可隱密事。

一、不限講說勤行之座席、雖爲何處會合不可致無禮事。

一、於二衆密議不可及外聞事。

以前條々任評議之旨定之畢、於自今以後者、一衆有群議至令治定之事者、縱雖爲同朋縁者、無患憂偏頗可致其沙汰。若背此條々者、

上奉始梵王釋王三界諸天、下難陀跋難^(陀)等四海龍神、惣日本國中大小神祇、別當山守護白山妙理權現并七社御王子眷屬、神罰冥罰各身可罷蒙之狀如件。

文永五年七月 日結衆等

一和尚 隆直 在判

(此間二百四十六人略)

元龜三年十月廿五日

忠 逕 在判

文永六年

己巳

紀元一九二九

三月。山城石清水八幡別宮政所、暹覺の後家平氏女を同宮領能美郡能美莊の物公文職に補す。

【菊大路文書】 山城

九九

八幡別宮政所

補任 當宮領乃美庄惣公文職事

平氏女

右職者、暹覺重代相傳之所職也。而後家平氏依讓得之所令補也。御庄宜承知、勿違失。故以補之狀如件。

文永六年・七年

文永六年三月 日

供僧長老法眼承能 在判

九月十日。酒井章長、その嫡孫利忠に鹿島郡酒井保地頭職を讓渡す。

【永光寺文書】 鹿島郡

一〇〇

讓渡

酒井保地頭職事

合壹所

右件地頭職者、西願之先祖相傳之私領也。而今相其次弟文書等、嫡孫利忠所讓渡也。全以不可有他妨。仍爲後日證文一狀如件。

文永六年九月十日

(酒井子郎宗忠) 沙彌 西願 在判

(利忠實判) 在判

文永七年

庚午

紀元一九三〇

五月二十日。平氏女、山城石清水八幡別宮領能美郡能美莊惣公文職等を彌里に沾却す。